

平成 30 年度自己点検・自己評価及び学校関係者評価報告書

学校法人ひらた学園

IWAD 環境福祉リハビリ専門学校

1. 学校の教育目標

本校は年齢を越えた様々な人と共に学び、自分と向き合い「自立」していくための学校です。教育理念は「個人の自立と地域社会に貢献できる人材育成」。一人一人が自立し自分の力を地域社会や福祉、または自分の人生へきちんと活かすことのできる人材育成です。教育目標は、「人間性」「希望」「個性」「未来」の四つをキーワードとし「人間性・個性を大切にし、人の持つ可能性を引き出し豊かな人生を一人一人が送ることのできる基礎教育を行います。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教職員全員での広告知活動を重点的に取り組みます。

介護福祉士コースに日本語学校卒業の留学生受入れを促進するとともに福祉施設への広報と連携強化を図ります。

専門の技術や知識を学び、多くの資格を取得して社会人としての就業教育を充実させ、即戦力として就職できるよう教育を行います。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目的・人材育成像

評価項目		自己評価				学校関係者評価				
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1				評価委員意見				
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・理念や目的その特性は周知徹底されている。 ・もともと行政や業界との信頼構築は高いが医療分野との関係強化が見えてきた。 ・幅広い年齢層が学べる-----社会人への広報が課題。
2	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1					
3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1					
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者に周知がなされているか	4	③	2	1					
5	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1					

自己評価における

①課題

既存学科でのそれぞれの業界・企業等とのパイプは構築されている。リハビリ医療分野や保育分野との関係強化が図られつつあるが継続して拡げる必要がある。非常勤講師を含めた教職員全員でみどりの環境・福祉・医療の3分野を有する専門学校としての内容や目的、将来像などその特色を広く広報していくことを更に徹底したい。

②今後の改善方策

学校の特色を、広く周知できるように教職員に研修等を行い、学生への教育及び将来に自信が持てるような体制を構築していく。

(2) 学校運営

評価項目		自己評価				学校関係者評価				
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1				評価委員意見				
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・福祉そして医療分野を有する全国でも数少ない専門学校として総合力を発揮してより一層の運営強化に努めて貰いたい。 ・地域（特に南区）の行政・施設・企業・住民の方々との連携を図り学校の存在を知って頂く。
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1					
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、又、有効に機能しているか	4	3	2	1					
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1					
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1					
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1					
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1					
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1					

自己評価における

①課題

医療そして保育の学科・コースが開設され完成年度でもあるので学校関係者評価委員会のメンバーに新しく加えていきたい。

②今後の改善方策

毎年ホームページでの情報公開を更新していくようにする。

(3) 教育活動

評価項目		自己評価			学校関係者評価				
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1			評価委員意見				
1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	4	3	2	1	
2	教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2					1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2					1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2					1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	4	3	2					1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2					1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2					1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価をとりいれているか	4	3	2					1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2					1
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2					1
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2					1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2					1

・非常勤講師を含めた教員の授業力や指導力の向上が必須。研修会や学科毎での分科会の開催。

・科目や教員の授業評価に取り組む検討をしてはどうか。

・行政や業界と連動した学外演習の取組みは大きな特色でもあるので更なる強化を図る。

13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1		
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1		

自己評価における

①課題

研究会や分科会での教職員の更なる技術と教育指導力のレベルアップそして学生への適切な指導力の強化に取り組む。

②今後の改善方策

関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との定期的な情報交換会を設ける。又、授業評価についても検討を行っていく。

(4) 学修成果

評価項目		自己評価	学校関係者評価		
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1	評価委員意見		
1	就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1	4 (3) 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学生面談や保護者面談を行い休学や中途退学を減らす。 ・同窓会の設立をしてはどうか。 ・卒業生を講師に招いての特別講義を実施してはどうか。 	
2	資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1			
3	退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1			
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1			
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 (3) 2 1			

自己評価における

①課題

県外者や社会人も多く、卒業時はともかく卒業数年後の状況が全ての卒業生について把握できていない。

②今後の改善方策

同窓会組織を設立して、学校新聞やその他情報を定期的に発信しながら情報の収集に努める。保護者懇談会や授業参観日を設ける。

(5) 学生支援

評価項目		自己評価	学校関係者評価		
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1	評価委員意見		

		やや不適切-2、不適切-1								
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援センターを強化して就職支援から学生フォローまで幅広く行っていく。 ・学生満足度を高めるという意識を教職員が持ち共有する。 ・保護者懇談会や参観日を実施してはどうか。
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1					
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1					
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1					
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1					
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1					
7	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1					
8	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1					
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1					
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1					

自己評価における

①課題

学生支援を総合的に行なえる学生支援センターをより強化して行く。

②今後の改善方策

学生支援や卒業生・保護者そして高校の先生方への情報提供やフォロー・連携に取り組んでいく。

(6) 教育環境

評価項目		自己評価				学校関係者評価				
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1				評価委員意見				
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・本館・2号館そして農場等は整備が行き届いていると思う。 ・医療/保育など実習先を充実させる必要がある。
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1					
3	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1					

自己評価における

①課題

医療や保育での実習先を更に充実させていく。

②今後の改善方策

学生の就職先や実習先との提携や連携を強化するためにも学校見学会を実施して教室や設備等の利用なども促進していく。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目		自己評価				学校関係者評価				
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1				評価委員意見				
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1	4	3	2	1	・幅広い年齢層が学ぶ学校として 社会人の募集そして広報をどう するかが課題と思われる。
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1					
3	学生納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1					

自己評価における

①課題

広報体制の強化と幅広い年齢層が学ぶ学校として社会人の募集そして広報をどうするかが課題と思われる。

②今後の改善方策

学科やコースの教員と広報が連携した学校訪問やホームページ・パンフレット等の充実を図っていく。

(8) 財務

評価項目		自己評価				学校関係者評価				
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1				評価委員意見				
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1	4	3	2	1	・理事会承認の中長期運営計画 に基づき進められている。 ・会計事務所の四半期ごとのチェ ックが機能している。
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1					
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1					
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1					

自己評価における

①課題

学科やコースの再構築に中長期的にどう取り組んでいくかが課題である。

②今後の改善方策

ホームページでの情報公開そして年毎に更新していく。

(9) 法令等の遵守

評価項目		自己評価				学校関係者評価				
		適切－4、ほぼ適切－3、 やや不適切－2、不適切－1				評価委員意見				
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・法令や設置基準等での情報収集そして共有を図っていく。 ・学校情報を毎年公開していく。
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1					
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1					
4	自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1					

自己評価における

①課題

学校評価制度の推進と充実を図る。

②今後の改善方策

自己評価含めて学校情報の公開に努める。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目		自己評価				学校関係者評価				
		適切－4、ほぼ適切－3、 やや不適切－2、不適切－1				評価委員意見				
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり系では行政や業界への貢献度は大であるが福祉系や医療系でも地域を含めて同様に取り組むべきである。
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1					
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1					

自己評価における

①課題

地域の方々や医療系や福祉系の施設・団体にも学校の存在を知って貰わなければならない。

②今後の改善方策

先ず地域での医療系や福祉系の施設・団体に学校施設・教室を活用して貰ったり地域活動に参加したりしながら学校を知って貰う。

(11) 国際交流

評価項目		自己評価		学校関係者評価	
		適切-4、ほぼ適切-3、 やや不適切-2、不適切-1		評価委員意見	
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3 2 1	4 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護が就労ビザ対象となったので介護コースへの留学生受け入れに実績が伴いつつある。 ・日本語学科開設に向けても準備を進めて国際交流・貢献に努めていく。
2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3 2 1		
3	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3 2 1		
4	学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3 2 1		

自己評価における

①課題

日本語学科開設も含めての留学生受入れでの組織や体制づくりを図っていく。

②今後の改善方策

関係先との連携を強化していきながら情報収集や研修会にも参加していく。